

老衰したこの国にも再生の春を希求する

黍稷農季人

最初に明確に述べておきますが、日本の自然は今でも美しいし、地域社会にも純良の人々がたくさんいます。私の暮らしにも不満はありません。すべては本質的に自分事ですから、他人に拠らずに自ら満足すればそれでよいとも考えています。誰が何を言おうと言うまいと、生きている限りは自分の生業仕事を続けます。

私は若い中学生のころから大学院生の頃まで環境保全活動を任意にしていました。大学に職を得た職業人としても環境保全に関わる仕事を40年しました。しかし、当時も現在でも、根底的な環境や文明問題については大人にも子供にもさほどの関心を持ってもらえていないようです。この国ではいつも始めの一步で止まってしまい、第二歩には進みません。新しがりやの流行に翻弄されて、不易を蓄積することも疎かにしています。

ところで、この国の人々の老衰の進行と幼稚退行、憎悪の露出と行儀の悪さ、どうしてこれほどまでに弱々しくなり、憎しみを募らせ、自己制御できない人が多くなったのでしょうか、これら無知や恥知らずは残念で悔しくてなりません。日本ではとりわけ、若い人々が社会的行動を起こすと、世間を知らないが無知呼ばわりし、年寄りが社会的に意見を述べると古臭い時代遅れだと言われ、何にしても冷笑か無関心をもって報いられます。有名なグレタさんも日本人にはこっぴどく冷笑されました。

ちなみに、祖父は徴兵されシベリアに出兵しました。父は戦争末期に徴兵されて海軍に行きました。私は、若い頃、父になぜあなた方は戦争に反対しなかったのかと詰問したようです。今、自分が父や祖父となって、子や孫たちから、なぜあなたは環境問題の解決に努力しなかったのかとは言われたくありません。

それでも驚いたことに、何年も一緒に共同研究したほぼ同年配と思われる女性にご挨拶したら、あなた誰ですかと真顔で言われました。言う方も、言われる方も、年は取りたくないもので、そんなにすぐに忘れ去られ、あるいは記憶が衰えているのなら（3分後に思い出したと後に聞きました）、もう環境活動の責任者にはならない方がよいと、人の振り見て我が身を改めて自戒しました。

インド憲法を起草したアンベードカルに触発されて、日本国憲法について考え、生業の自然権や食料主権を中心に、環境原理の加筆修正の意見を書いてみました。文明の再生と環境原理の重要性は、憲法レベルの課題であると自覚して、本来ならば主権者の国民が議論を深めなくてはなりません。

私は、人間が近代社会になって獲得した普遍的精神である自由・平等・友愛を行動規範として、M. K. ガンディーの非暴力・不服従の方法で、思索した見解を記述しておきます。いまだに戦争の絶えない世界に人間の文化的進化の粋を広めたいです。科学は事実にと拠って考えます。事実隠蔽や虚偽捏造からはより良い課題解決の方向は見出せません。

イタリアの小さな村の物語を見て、自由と平等は個人の自律で、その個人こそが友愛

に溢れ、楽しい地域共同体社会が維持されるのでしょうか。このくにに欠けているのは、個人の自律です。自律するためには経済的自立が必要でしょう。山間地居住者への直接保障だけでなく、自然離れした都会人に自然や生業技能、伝統的知識体系を教えることで収入が得られれば良いと思います。都会人は過剰消費の誘惑に抗って、生活を自律せねばなりません。素のままの美しい暮らしは自律する生活文化の根底原理です。

2019-12-2